



若木

2017年9月1日 No. 6

町田市立町田第五小学校
校長 五十嵐 俊子

安心して挑戦できる学びの場

校長 五十嵐 俊子

夏休み中、飼育小屋のウサギの世話や植物の水やりに登校してきた子供たちから、スカッと晴れないので予定していた旅行が変更になった話や、急な激しい雷雨に驚いた話などを聞かせてもらいました。確かに今夏は、都心の雨が21日間続きましたし、北日本と東日本の太平洋側の日照時間も平年の半分以下だったそうです。全国各地で、今までは考えられないような大雨による災害も多発しました。改めて気象変動を実感する夏でした。

今月中旬、国連広報センターでは、「気候変動によるリスク — 私たちはどう立ち向かうか —」という国際的なシンポジウムを行うそうです。これは、持続可能な17の開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）のうちの一つ（目標13:気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る）に関係します。2年前の国連サミットで、2030年まで国際社会が取り組むべき国際目標として採択されたものです。

SDGsについては、7月にピコ太郎さんが国連のPR大使となったことで話題になりましたが、2030年、13年後の世界を担っていくのは、まさに今を生きる子供たちです。この『持続可能な開発目標』は、2020年度から実施される新学習指導要領の理念とも一致しています。持続可能な社会づくりの担い手、地球市民という視点を大切にされた教育は、「ESD: Education for Sustainable Development」として、日本だけでなく世界中で推進されています。知識の量を増やすことに重点を置くのではなく、答えが一つに定まらない課題を、多様な人々と一緒に、相手の心を感じながら、持続可能な答えを創りあげていく教育、これは存在しない未来の仕事に就くために必要な教育でもあります。このように日本の教育全体が変わることに伴い、大学の入試もそれに合わせて変わっていきます。

本校でも、この夏から、2020年度に向けて来年度からのカリキュラムを創造する準備を始めました。今までの教育課程をESDの視点で見直し、総合的な学習の時間を中心として教科横断的に学べるようにしていきます。地域にいらっしゃる専門家の方と、地域の大学・玉川大学と連携を図りながら、環境、防災、国際理解、人権等に関する内容について、主体的、協働的な探究学習を実践できるようにしていきます。そして毎年の年度末には、この学びの成果を、子供たちが発表する機会も設けていきたいと考えています。

いよいよ2学期が始まりました。1学期に続いて、学校を、安心して挑戦できる学びの場となるよう、笑顔のあふれる温かな環境にしていきたいと思えます。そして子供たちに、色々な人々とコミュニケーションをとる力、対話力をつけ、最終的には、自分で考えて判断し、他者の気持ちを押し量りながら行動できる力を付けていきたいと思えます。

保護者、地域のみならず、どうぞ引き続き、寛容な精神、お互いさまの心で、まちごの子供たちを見守ってください。教員も新しい取組にどんどんチャレンジしていきますので、後押ししていただきますようご協力をお願いいたします。

英語や道徳、ICTを活用した対話的な学び等、「チームまちご」は学び続けています。

